

“市民出資型”太陽光発電市民共同発電所建設に至る経緯について

2014年2月27日

(特活) サークルおてんとさん (一般社団法人地域未来エネルギー奈良) 理事長 清水順子

1. 「一般社団法人地域未来エネルギー奈良」の設立経過と活動について

設立母体となったNPO法人サークルおてんとさん(法人格取得2013年10月:以下サークルおてんとさん)は2002年から寄付型の市民共同発電所づくり(1号機あすなら苑20kW、2号機ならのは10kW、3号機、あすなら保育園10kW)を通じ、奈良県内での自然エネルギー普及啓発やネットワークづくりを行ってきました。

2013年11月には4号機として、サークルおてんとさんとしては初めて“出資型”市民共同発電所の建設をしました。建設協力金を会員から(1口10万円20口)借入れ、その他協同福祉会とサークルおてんとさんで資金を協力して出資し、10.08kWの太陽光発電設備費(啓発事業含む)約400万円を協同福祉会の施設「あすなら苑」の屋根に設置し(所有:協同福祉会)、2014年1月には関西電力に全量売電を開始しました。売電収入を出資割合で按分し、サークルおてんとさんはその中から借入金を10年後に一括返済します。

一方、2011年末から、奈良県地球温暖化防止活動推進センターとNPO法人サークルおてんとさんとならコープ職員有志で「なら自然エネルギー研究会」という勉強会を立ち上げ、ならコープ環境保全活動助成金(2012年度、2013年度)を得て、“市民出資型”の市民共同発電に関する情報収集(飯田市、湖南市、京都市の事例)を重ねてきました。

県内の再生可能エネルギー普及を目指し、気候ネットワークと奈良県地球温暖化防止活動推進センターとサークルおてんとさんが主体となって、「一般社団法人地域未来エネルギー奈良」を2013年12月9日に法人設立しました。この法人は、地域の再生可能エネルギー導入やまちづくりに関する事業を行い、安心して安全なエネルギーの地域自給を通じた地域活性化に寄与することを目的に設立し、第1歩として、太陽光発電を中心に市民からの資金を活用した融資を受け、太陽光発電設備を建設し、再生可能エネルギー特別措置法の固定価格買取制度のもと、20年間全量売電し、その収入から返済して行きます。現在、融資をするトランスバリュー信託株式会社が出資募集(1口10万円180口15年 予定配当率年1.25%)を行っています。さらに他の再生可能エネルギーも視野に入れて「地域活性化」を目指して活動を計画しています。

2 沿革

2011年12月 「なら自然エネルギー研究会」として勉強会を発足

サークルおてんとさん、奈良県地球温暖化防止活動推進センター→ 気候ネットワークに相談

2012年9月～2014年3月

低炭素の地域づくり「戦略会議」奈良開催(年3回を2年間実施) 地元事務局として活動

2012年9月～2014年3月(2012～2013年度 地球環境基金助成事業)

奈良で自然エネルギーを普及させるための情報共有・意見交換の場

自然エネルギーに関する最新動向を共有し、自然エネルギー普及のための課題や展望について検討

